

# 租税教育実践レポート

## 税金の使い道を考えてみよう！

登米市立東和中学校教諭 3学年 伊勢 健二

実施年月日：令和元年12月10日 43名

### 1 実践計画・指導のねらい

生徒は消費税など身近な税金については知っているが、税制度の仕組みなど全体的なことは知らないことが多い。しかし、税金については関心を持っているので、身近な税制度を取り上げて、単元や授業を展開することで理解を深めることができると考えた。また、級友と意見を交換し、共有することで、より深い学びができると思い、話し合い活動や発表の仕方などの工夫を行った。

### 2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・財政の仕組みを理解する。 ・税金の制度について考える。	○ <u>日本の税金は平等かな？</u> ● 所得税の累進課税から、所得が多くなればなるほど高い税率になることに気付いた。 ● 消費税などの間接税は、その人の所得に関係なく同じ金額の商品を購入したら同じ金額の税金を負担しなければならないことに気付いた。 ● 税金の負担を平等にするため複数の税金をうまく組み合わせていることを知った。
2	・国の歳入、歳出について理解する。	○ <u>身近な生活の中で、税金はどのように使われているかな？</u> ● 起床してからの1日の生活の中で、税金によって支えられていることの多さを知った。 ● 少子高齢化による社会保障関係費の増加など歳出の内訳を知った。 ● 歳入の不足を補うために、国債の発行が多くなり、借金が増えていることを知った。 □使用教材名 副教材「わたしたちのくらしと税金」 国の歳入、歳出について資料を使い確認した。
3	・予算を考える。	○ <u>予算を立ててみよう！</u> ● 日本の予算について、自分が考える課題（テーマ）について、税金の使い道を考えた。 ● グループの中で、一人一人が考えた予算案を発表することで、様々な税金の使い道について知った。 ● 一人一人が作った予算案を掲示し、お互いが見合うことで全体でも共有し、自分との共通な部分や違いに気付いた。
4	・税金の使い方を知り、考える。	○ <u>この道路工事は必要？</u> ● 身近で行われている道路の工事について、必要だという意見と不必要だという意見を、それぞれ考えた。 ● 様々な立場から意見を考えることや、全体的な視点を持つことの大切さに気付いた。

#### 【指導のポイント】

##### ≪1時間目≫

消費税など分かりやすい税金を取り上げることで、関心を持って課題に取り組めた。

#### 【指導のポイント】

##### ≪2時間目≫

自分の1日の生活から税金が使われている。場面を考えることで、積極的に取り組めた。

#### 【指導のポイント】

##### ≪3時間目≫

一人一人が考えることで、税金の使い道をより身近に考えることができた。

#### 【指導のポイント】

##### ≪4時間目≫

様々な立場から考えることで、より深く理解できた。

### 3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

- ◎ 消費税など身近な税金を授業で取り上げることで、生徒の興味や関心を高めることができた。
- ◎ 身近なものから興味や関心を持たせ、話し合い活動を通して意見の交換や共有を行い、考えを深められた。
- ◆ 累進課税制度や国の借金の多さに驚きを感じている生徒が多かった。

(その他) 話し合い活動を通して、級友と意見交換をすることで様々な意見を知ることができて良かった。